

日本学術会議主催学術フォーラム

## 「科学を変えるデータジャーナル」

### －科学技術データの共有・再利用の新たなプラットフォーム構築に向けて－

#### 趣旨

データ共有・再利用の本格化時代に臨み、データを価値に展開する“データ力”が問われている。国際アカデミー及びG8等政治の場ではデータに関する議論が積み重ねられ、オープンアクセス、オープンデータ、オープンサイエンスへの動きが推進されている。学術が大きく変わろうとしている。

そうした状況の下で、従来からのデータベース専門家を中心にした大規模なデータベースやアーカイブの構築の活動ではなく、データの生産者、データ専門家、そしてデータの利用者が連携して科学技術データを構築するための新たな方法としてのデータジャーナルの発刊が始まっている。将来、データジャーナルは、オリジナル論文主体の学術誌を補完し、専門分化した学術分野のカベを超え、社会と学術とのより緊密な関係を築くための“メディア”となりうるのだろうか？

データの時代における科学技術データの活動と役割について、あるべき姿・展望を明らかにする。

日時：平成27年3月4日（水）10：30～17：30

場所：日本学術会議講堂

東京都港区六本木7-2-34

総合司会 原田 幸明(物質・材料機構研究員)

開会挨拶 喜連川 優(日本学術会議会員、情報学委員会委員長)

#### 第一部 日本のデータ・情報戦略について

座長 長島 昭(慶応大学名誉教授)、  
佐藤 正樹(科学技術振興機構調査役)

講演 「オープンサイエンス時代の科学技術情報政策」

原山 優子(内閣府総合科学技術・イノベーション会議議員)

講演 「情報学からみたデータプラットフォーム・データジャーナルの可能性と課題」

喜連川 優(日本学術会議会員)

講演 「世界のオープン化の流れとデータ共有 ―JSTのデータ共有に向けた活動」  
大竹 暁(科学技術振興機構総括担当理事)

#### 第二部 データ共有と利用に関する国際連携について

座長 北川 源四郎(日本学術会議会員、情報・システム研究機構長)  
竹内 秀樹(国立国会図書館電子情報流通課長)

講演 「オープンアクセスからオープンな科学データへNPGの活動」

宮入 暢子(ネイチャーパブリッシンググループ コンサルタント／アナリスト)

----- 昼食休憩 -----

講演 How to work together for data-experiences in US and difficulties and opportunities of data journals(仮題)

Paul Uhler(Consultant, US Academies)

講演 Important assets of data journals to bridge science and society (仮題)

Krishan Lal(President, The Association of Academies and Societies of Sciences in Asia)

### 第三部 分野別の国際的なデータ活動について

座長 春山成子(日本学術会議連携会員)、芦野俊宏(東洋大学国際地域学科教授)

講演 物理分野のとりくみ(仮題) 植田憲一(日本学術会議連携会員)

講演 物質・材料分野のとりくみ(仮題) 小関敏彦(日本学術会議連携会員)

講演 ゲノミクス分野でのデータ共有と、その再利用を促進する Scientific Data 誌  
川路英哉(理化学研究所 ユニットリーダー)

講演 脳神経科学分野のデータ共有と国際連携  
古市貞一(東京理科大学理工学部教授)

講演 地球惑星科学分野のとりくみ(仮題)  
村山泰啓(日本学術会議特任連携会員)

講演 高品質データの社会還元(仮題)  
小島功(産業技術総合研究所総合研究主幹)

講演 メタデータ、識別子事業について(仮題)  
武田英明(国立情報学研究所教授)

Discussants: 原田幸明、芦野俊宏、佐藤正樹、村山泰啓、竹内秀樹、門平卓也、野澤隆、大武美保子、国沢隆

### 総括 今後の展望と課題

Piero Carninci(理研ライフサイエンス技術基盤研究センター、副センター長)

岩田修一(日本学術会議連携会員、国際サイエンスデータ分科会委員長)

定員 当日先着順 300 名 事前登録なし

問い合わせ先 (下記へご連絡ください)

日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当

〒106-8555 東京都港区六本木7-2-2-34

電話 03-3403-6295 FAX 03-3403-1260

Email: p228@scj.go.jp